

1. 件名

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術／コロナ禍後に狙うべきヒューマン・インタラクション基盤技術の出口領域に関する調査

2. 目的

「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」（以下「本プロジェクト」という。）のサブテーマの一つである「ヒューマン・インタラクション基盤技術」（以下「本サブテーマ」という。）では、特に介護、教育、接客等のような高度なインタラクションを必要とする分野のイノベーションを目標として、これまで出来ていない人の状況変化・会話・表情・身振りなどの現場情報を収集してAI等で分析することで、複雑で予測が困難な人の認知・行動を理解するとともに、これまでのように決められたシナリオベースの対応だけではなく、臨機応変に迅速で違和感なく人の状況判断やコミュニケーションを支援するといった、人と人のインタラクションをAIが支援・増強する高度に洗練された技術を開発し、その普及の道を拓くことにより、Society 5.0を推進する新たな知的社会基盤の構築を目指している。

他方、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、ヒューマン・インタラクション基盤技術が対象としている「人と人のインタラクション」の形は変革しており、コロナ禍後も従前の形態ではないインタラクションが一般化することも想定される。

本調査では、本サブテーマの主な出口領域において、ヒューマン・インタラクション基盤技術の社会的ニーズ、経済的ニーズを調査し、コロナ禍後に想定される社会像および直近の動向を踏まえて、社会実装として狙うべき領域を整理する。

3. 内容

以下の各業務について、適宜NEDOと相談の上で実施すること。

（1）ヒューマン・インタラクション基盤技術に係る技術体系の整理

認知科学、人工知能、HCI（ヒューマン・コンピュータ・インタラクション）それぞれをキーワードとした学術論文等を中心として、ヒューマン・インタラクション基盤技術に係る技術体系を整理し、「ヒューマン・インタラクション基盤技術 技術系譜図」を作成すること。また、作成した技術系譜図に本サブテーマで開発している技術をマッピングすること。

(2) ヒューマン・インタラクション基盤技術の社会的、経済的ニーズに係る調査

本サブテーマの主な出口領域である介護、教育、接客それぞれの領域において、ヒューマン・インタラクション基盤技術の社会的ニーズ、経済的ニーズについて、(1)の調査結果並びにWeb・文献等のデスクトップ調査を通じて整理すること。

(3) コロナ禍後におけるヒューマン・インタラクション基盤技術の社会実装シナリオの作成

コロナ禍後(2030年頃)に想定される社会像を、Web・文献等のデスクトップ調査を通じて整理すること。

また、その社会像に対し、本サブテーマの成果物の強みを踏まえた分析に基づいて、成果物の社会実装シナリオ(本サブテーマの成果物がどのように貢献するのかがわかりやすく示された画像コンテンツ(イメージ図)を含む)を作成すること。

なお、本サブテーマの主な出口領域において、コロナ禍後に想定される社会像および直近の動向を踏まえて、社会実装として狙うべき領域を整理すること。

(4) 進捗報告会の実施

上記に係る進捗報告を、本サブテーマのサブプログラムディレクター、内閣府、NEDO等に対して適宜進捗状況の報告を行うこと。なお、2022年9月中旬を目処に、調査結果の中間報告を行うこと。

4. 調査期間

NEDOが指定する日から2022年12月20日まで

5. 報告書

提出期限:2022年12月20日

提出方法:NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容:「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

6. 報告会等の開催

委託期間中または委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上